

決算審査 PICK UP 2

補正までした(仮称)佐原認定こども園の整備事業費はなぜ繰り越されたのか



市内こども園第1号のおみがわこども園

**Q** 幼保一元化施設整備事業に関し、繰越額の内容は。

**A** 用地取得費と登記委託料を合わせた1億8097万7千円が繰越額です。これは、用地交渉が年度内に終了できなかったためです。

**Q** 用地取得費等は、補正で予算化されたもので、年度内に執行するべき。

**A** 平成30年度の見直しは、平成30年度中に執行できるように、現在、最大限努力しています。

決算審査 PICK UP 3

一定の効果があつたプレミアム商品券発行事業をなぜ中止したのか



平成29年度まで発行していたプレミアム商品券(見本)

**Q** プレミアム商品券発行事業に関し、事業の成果と平成30年度中止の理由は。

**A** 事業は平成21年度から9年間実施し、総額34億9千万円を発行し、換金額は約34億8千万円です。市民への消費喚起と加盟店の売り上げ向上に一定の効果があつたと考えます。しかし、プレミアム商品券は、ある程度の発行部数を確保する必要があります。予算規模が大きいため、また、これまで長期間実施してきたことから、執行団体と協議し、新たな視点で商業の活性化を推進するため、本事業は実施しないことになりました。

決算審査 PICK UP 4

「佐原の大祭」ユネスコ無形文化遺産登録記念事業費の内訳は

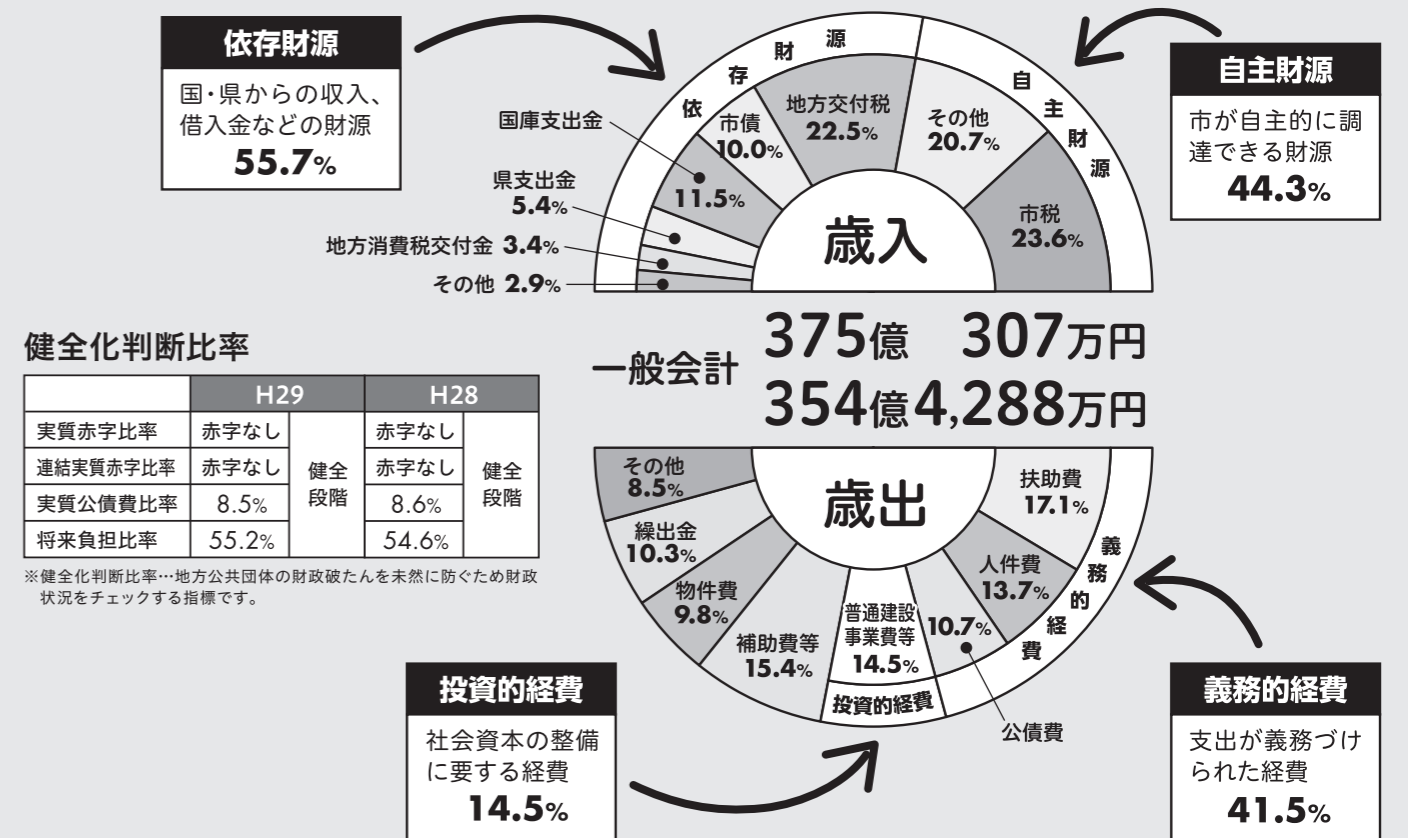


ユネスコ無形文化遺産登録記念事業での山車行事

**Q** ユネスコ無形文化遺産登録記念事業に関し、事業費の内訳は。

**A** 市の一般会計と佐原の大祭実行委員会から支出されています。佐原の大祭の実施主体となり、その歳入は、協賛金、県補助金、枚数席収入等で、2503万6千円。歳出は、枚数席の設置を含む会場設営費、警備費等で、1853万6千円。歳入から歳出を差し引いた金額650万円が余剰金となり、精算金として市の会計に戻しました。

市税増も地方交付税減額 引き続き財政規律を注視



決算審査 PICK UP 1

一般会計歳入歳出決算 実質収支額は16億1,336万8,089円の黒字

**Q** 実質収支は黒字、単年度収支は赤字であり、実質単年度収支も赤字となっている。この原因をどのように捉えたらよいのか。

**A** 予算に対して次年度への繰り越し分を含めた収入額は、平成28年度が、マイナス5億9400万円、29年度は、2億5300万円の増でした。執行残は、平成28年度が約27億円、29年度は約13億6千万円でした。この歳入と歳出の状況から単年度収支が4億9200万円の減となりました。実質単年度収支のマイナス20億5千万円は、29年度に公共施設整備基金を創設し積み立てたことで財源不足となり、財政調整基金から約25億3200万円を繰り入れたため、このやりくりが大きい要因と考えられます。

**討論** 総所得が増え税収の伸びがあつたというが、実感がかめない。逆に国による社会保障制度の度重なる改悪が、市民の懐あるいは年金事情を直撃しているというのが実感であり、不十分といわざるを得ないため、反対の立場を表明する。